



## カッパになった山田選手からもらった元気で 2 学期も GoGoGo !

校長 大谷 京司

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中での 2 学期の始まりということで、いつもとは違う重苦しさを感じていた時でしたが、今回のパラリンピック競泳のライブ映像を見た時、そういった気持ちが一気に吹き飛びました。日本勢のメダル第 1 号、14 歳の山田美幸選手の力強い泳ぎと屈託のない笑顔に心動かされました。

銀メダル確定後のインタビューで、「予選でもあれだけ緊張したんだから、決勝でももうそれ以上緊張するのは間違いないと思って、開き直って形だけでも笑顔を作って楽しんでいこうと思った。」と語っていました。小児ぜんそくを治すために保育園時代から水泳を始めたとのことですが、パラ競泳に興味をもったのは、リオデジャネイロ大会をテレビで見てから。「選手みんなが笑っていた。一生懸命泳いで、競い合うのはこんなに楽しいものなんだと感じて、自分もそういうふうになりたいと思った。」とこの時、9歳にしてパラリンピックで泳ぐ誓いを立てたそうです。

生まれつき両腕がなく、脚も左右で長さが違うため、バランスをとったり推進力を得たりするのが大変難しいという困難さに対して、水中用のパラシュートやバケツなどでは物足りず、体にくくりつけたベルトで 3 キロほどある四角い排水溝のふたを引きながら泳ぐという特訓を積み重ねながらトップレベルのアスリートへ成長していったとのこと。

日頃の困難や大会の緊張に打ち勝つためにたゆまぬ努力を続け、今もなお明るく前向きに成長し続ける姿に私たちも学ぶべきところがたくさんあります。2 学期もますます頑張ろうという気持ちになりました。



【8月25日 日本経済新聞より】

## 夏休み中に野菜も大豆も稲もぐんぐん成長

1 学期に子どもたちが世話をしてくれた夏野菜も、休み中に大きく成長しました。収穫した野菜は卒業生の保護者が経営する「アルバム絵本カフェ」さんの店頭においていただき販売しました、売上げは、修学旅行の費用の一部に充てさせていただく予定です。

大豆にはうす紫色の小さな花が咲き、ここから枝豆の赤ちゃんが育ってきています。稲にも花が咲き、イナゴやミヤマアカネなどが飛び交う中、腰あたりの高さまでしっかり成長しています。

